

不登校や仮病の原因が Q 熱？

今年 2 月 14 日に東京都で開かれた Zoonosis シンポジウム（主催：Zoonosis 協会，一般社団法人家庭動物愛護協会）で、日本大学臨床検査医学講座の荒島康友氏は身近にいるペットとの接触で Q 熱に罹患し、正確に診断されないまま慢性化し、全身倦怠感、頭痛、関節痛、筋肉痛など慢性疲労症候群（CFS）に類似した慢性型の不定愁訴を呈する post Q fever fatigue syndrome（QFS）となりそれが不登校の原因となったり仮病と称され精神科やカウンセラーを悩ませる症例があることを発表しました。Q 熱はインフルエンザ様の発熱といった症状で発症しますが、正確に診断される例はほとんどなく、それから数カ月後に不定愁訴を訴える慢性型に移行する場合があります。荒島氏によると、動物の Q 熱病原体（*Coxiella burnetii*）保菌率はイヌでは 10%、内ネコでは 15%ですが、外ネコは 45%にもなり、不定愁訴で同氏のところに来院した患者を診察したところ、QFS 患者が約 2 割で、外出時に外ネコなどと接触したケースが少なくないと報告しています。同氏らの調査によると、QFS 患者ではうつ性自己評価尺度（SDS）による抑うつ状態、睡眠障害度、自殺企図といった項目が対照群と比べて有意に高いことが認められたそうです。これらの患者の中には自殺した症例もあったそうです。

微熱や倦怠感があっても、検査結果からは異常が見当たらない。そんなときは QFS を疑うべきと同氏は述べています。そのような患者は学校や職場で仮病と言われ、出社や登校ができないといった悪循環に陥るケースが少なくないといっています。同氏は不定愁訴の患者に占める QFS の割合は高い可能性があり、現在の患者数は推定 300 万～350 万人前後に上る可能性があり、QFS 患者が見過ごされている現状に対して、早期の診断・治療の体制を構築させる必要性を強調しました。

Q 熱の原因菌 *C. burnetii* は広く家畜や愛玩動物に寄生し、これらの動物は無症状であることが多いのですが、尿・糞・乳汁などに排出され、環境を汚染します。また、本菌は乾燥に強く、エアゾルとなり広く大気に散布され、それを吸入した人は感染します。とくに動物の胎盤に濃厚に感染し、動物の出産に立ちあつた人への集団感染の報告が多く見られます²⁾。

それでは Q 熱感染症はどれぐらい蔓延しているのでしょうか？

近年の研究によると欧米では市中肺炎の第 4～5 位を占めるほど多い感染症であることが判明しており、本邦でも肺炎入院症例のなかの原因菌として 6 番目の順に多く、積極的に検索すればかなりの頻度で感染症を起こしているという報告もあります³⁾。しかし先に記述した如く、その臨床像は多彩で非特異的であり、その臨床像や一般検査所見のみから本症を診断することは事実上困難とされています。急性期の自覚症状は高熱、咳嗽、喀痰などの他に倦怠感、頭痛、筋肉痛、食欲低下など全身症状が目立ちますが、皮疹や刺し口、リンパ節腫大などの特徴的な診断指標は存在しません。また過半数の症例で急性期に肝障害を併発しますが、多くの場合は一過性で軽度の上昇にとどまります。肺炎例における胸部画像所見も通常の肺炎と同様な所見であるとされています。

診断は抗体価の測定が中心ですが、抗体価の上昇は概ね緩やかで、確実な診断のためには回復期以後まで1～2 カ月以上根気よく抗体価を追跡することが必要とされています。また PCR 法は補助診断法として有用性が高く血液、喀痰、尿、咽頭粘液など様々な検体を用いた検索が可能ですが、抗体価、PCR とも保険適応は認められていません。すなわち一般臨床では診断困難ということです³⁾。

急性 Q 熱の予後は概して良好で、多くは1～数週間で治癒します。無治療でも死亡率は1～2% と低いですが、予後不良な慢性型への伸展を防止するためにも診断が確定した例や疑いの強い例では積極的に治療すべきと考えられています⁴⁾。第 1 選択薬は細胞内に良く移行するテトラサイクリン薬で、同様に移行の良いマクロライド薬やキノロン薬も有効です。このような薬剤は通常、臨床で多用される薬剤で通常のかぜ症候群や肺炎と診断されこれらの薬剤を投薬され Q 熱と診断されないまま軽快している症例が多かったのでしょう。しかし、近年、抗生剤の適正使用が叫ばれ、インフルエンザ様のかぜ症候群はウイルスが原因と考えられ、抗生剤の投与を控える趨勢にあり、このような場合、Q 熱がウイルス感染と誤診され無治療となる可能性が考えられます。

実態がよく解らない慢性 Q 熱への進展予防のためにも急性 Q 熱への医師の理解と早急な診断法の確立が望まれます。

平成 27 年 3 月 12 日

参考文献

- 1) 荒島康友：ペット寵愛が不登校や自殺と関連か，パストツレラ症と Q 熱に注意喚起
<http://mtpro.medical-tribune.co.jp/mtpronews/1502/1502048.html>
- 2) Q 熱とは？
<http://www.nobuokakai.ecnet.jp/5023.html>
- 3) 高橋 洋：コンパニオンアニマルと感染症．日内会誌 2010；99；2682－2688．
- 4) 渡辺 彰：Q 熱診療の最前線．日内会誌 2008；97；423－429．